

飯地分団が優勝～市長査閲

9月9日、市消防団の第3回市長査閲が山岡町総合グラウンドで行われました。この査閲は、消防団員の職務遂行に必要な訓練を市長が点検し、団員の知識・技能の向上を図ることを目的として実施しています。この日は、約860人の団員が参加し、閲団、分列行進やラッパ隊、音楽隊の特別点検を行い、小中隊訓練で順位を競いました。成績は次のとおりです。▷優勝＝飯地分団 ▷準優勝＝中野方分団▷3位＝三郷分団



優勝した飯地分団の小隊訓練

自分の命は自分で守る



災害用伝言ダイヤルの説明を受ける参加者

9月2日、市内全域で東海地震を想定した防災訓練が実施され11,604世帯、19,348人が参加し、高齢者などの要援護者の把握や、避難者数の報告を行いました。明智地区では、指定避難場所を明智小学校に設定し、非常用ハイゼックス炊飯包装食を作る炊き出し訓練や、消防署職員などの指導による応急手当、AEDの使用法、消火器訓練、家具転倒防止講習、地震体験などが行われ、参加者は真剣に取り組みながら自己の防災意識の重要性を学びました。

広重版画の魅力に迫る

9月9日、中山道広重美術館で「広重の風景版画の魅力」と題し、名古屋市美術館の学芸課長神谷浩さんを講師に迎え、公開講演会が開かれました。

神谷さんは、美術館企画展の広重作品を例に挙げ、すりの違いだけでなく、作者の意図を考え、作品として楽しむことをアドバイス。広重と北斎の違いを挙げながら、広重の風景版画に見られる一連の作品では、季節や天候などの変化、人物表現により飽きさせない工夫がされていると解説されました。



映し出した作品を使い、分かりやすく解説する神谷さん

大正100年まで1420日



大正100年までの日数を示すカウンターを除幕

9月8日、恵那文化センターで大正百年祭に向け「大正浪漫コンサート & シンポジウム」が開催され、司葉子日本大正村村長をはじめ、関係者が大正100年までを数えるタイムカウンターの除幕とシンポジウムを行いました。9日には、由紀さおりさんと安田祥子さん姉妹によるコンサートが開催され、懐かしいメロディー約30曲を、楽しいお話と共に歌い上げました。また明智中学校1年生約60人が参加して青い山脈など2曲と一緒に合唱しました。

子どもは愛情を求めている

8月26日、恵那文化センターで「子育て・親育ちフォーラム」家田荘子講演会が開催されました。これは、市PTA、市青少年育成市民会議などが、子どもとのかかわり方や親の役割を再度考えようと企画。講演では、家田さん自身が幼少のころに経験した「いじめ」の中で、暴力のいろんな形や一生消せない傷が残ること、子どもの心は不安定で壊れやすく、常に親の愛情を求めているということを訴え掛け、来場者は緊張した面持ちで聞き入りました。



実験と自ら取材した子どもについて語る家田さん

夏の夜のジャズコンサート



初めてのドラムに触れる子どもたち

8月25日、恵那北小学校体育館で笠置町青少年育成町民会議の主催による笠置山ろくコンサートが開催され約200人が訪れました。

初めに子どもたちによる迫力ある御笠置太鼓の演奏があり、続いてジャズ演奏が行われました。また同校校歌のジャズ風アレンジの披露などもあり、楽しい演奏に聞き入りました。このほか会場では、ドラムに触れる「楽器に触れてみようのコーナー」があり、多くの子どもたちでにぎわいました。

薬業商『大船講』に学ぶ

8月26日、岩村公民館で岩村町まちづくり実行組織「城下町ホットいわむら」が岩村城下町を拠点に全国で薬売りを展開した「大船屋新六」についての勉強会を開催し約50人が参加しました。江戸末期から明治初期にかけて新六は、全国の旅館と提携して旅人が薬の効能を宣伝するというアイデア商法を考え大いに繁盛しました。講師は「城下町ホットいわむら」歴史掘りおこし委員会の浅井紀彦さんで、参加者は新六の活躍に興味深く聞き入っていました。



当時の様子を興味深く勉強する参加者たち

田んぼの中のコンサート



里山に響き渡るソプラノの歌声とマリンバの演奏

8月25日、明智町下田良子地区で第6回田んぼの中のコンサート(明智地域づくり・まちづくりフォーラム主催)が開催され、約350人が里山の自然の中でマリンバの優しい音色やソプラノの澄んだ歌声などを楽しみました。虫の音が聞こえ、月明かりが辺りを照らし出す中、屋外特設ステージでは、マリンバ、ピアノ、ソプラノの演奏をはじめ、明智町出身のシンガーソングライター橋本みずきさんが、愛知万博で披露した曲などを歌いました。

中山道広重美術館
企画展覧会

会期
9/6(木)～11/25(日)
第2期
10/2(火)～10/28(日)
開館時間 午前9時半
～午後5時(入館は午後4
時半まで)
観覧料(市民は無料)
▷大人=800円(団体650
円)▷小・中・高校生=
500円(団体400円)

毎週月曜日(祝日を除く)
祝日の翌日(土日・祝日を除く)休館。



歌川広重
木曾海道六拾九次之内
下諏訪
大判錦絵 錦樹堂
天保6～9年(1835～1838年)ころ

「木曾海道六拾九次之内」は、歌川広重と溪斎英泉2人の絵師が参加している。本シリーズで英泉は、純粋な風景画というより、人事風俗に主眼を置いた風景画を多く残している。一方の広重も、わずかではあるが人物を主体とした作図があり、ここに挙げる下諏訪宿はその一例である。

下諏訪宿は中山道と甲州街道の分岐点であり、難所の和田峠と塩尻峠の中間にあったことからぎわいを見せた。広重は宿場の旅籠屋の様子を描いている。座敷には手ぬぐいを干し、風呂上りの男たちが食事を取っている。後ろ姿の男は、その仕事から見て器を抱え夢中になって食べているのだろうか。この人物は、広重自身という説も出されている。また画面奥のふすまには版元・錦樹堂の印が文様として登場している。画面左の湯殿では、男が一人のんびりと湯に漬かっており、手ぬぐいで顔をふき「ああ極楽」とでも言わんばかりに、なんとも気持ち良さそうだ。

広重といえば風景画の巨匠であることは間違いがないが、広重作品の中の登場人物たちにも注目していただきたい。

10月1日スタート「緊急地震速報」 強い揺れを、地震が来る前にお知らせします

緊急地震速報は、強い揺れが来る前に身を守っていただくためのものです。テレビやラジオなどで緊急地震速報を聞いたときは、**周囲の状況に応じて、慌てず、まず身の安全を確保しましょう。**
緊急地震速報では、震度4以上の地域を発表します

震源に近いところでは、強い揺れの到達に間に合わない場合があります
問い合わせ 岐阜気象台防災業務課☎058-271-4108、市防災対策課☎26-2111(内線315)
詳しい解説をインターネットでご覧になれます
<http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/index.html>



家庭では 頭を保護し丈夫な机の下などに隠れる
あわてて外へ飛び出さない

自動車運転中は
あわててブレーキをかけない
ハザードを点灯し、揺れを感じたらゆっくり停止



田んぼの違いで味も違う

9月19日、三郷小学校でまもろ米教室が開催され、自然郷土クラブに所属する児童18人が参加しました。この教室は水土里ネットえな(伊藤祐道代表)と同校などが主催し、野井地内の実験田を利用して、不耕起栽培について学習しています。また11月には、自然の生物が生息するビオトープを製作しようと最終構想をまとめました。その後、今年収穫された普通米と不耕起米を食べ比べ、「不耕起米の方が甘くておいしかった」など、違いを発表しました。



2種類のおにぎりを食べ比べてお米の違いを学ぶ児童

坂折棚田で稲の手刈り体験

9月20日、中野方町坂折の棚田で中野方小学校の5・6年生39人が稲刈りを行いました。これは、棚田の仕組みと米作りを実際に体験し、景観と農業の大切さを学習することを目的に行っており、本年度は約3畝の田1枚で田植え、草取り、稲刈りを計画。児童らは照り付ける太陽のもと、汗を流しながら手刈りを体験しました。今回収穫した米は、11月の収穫祭で五平もちにして味わう予定で、児童らは「早く食べたいね」と話しながら稲を刈りました。



汗を流しながら稲を丁寧に刈り取る児童たち

いつまでもお元気で



養護老人ホーム万年青苑で花かごを渡す可知市長☎

9月14日、敬老の日を前に可知市長、副市長、収入役が、市内の高齢者宅などを訪れ、長寿を祝いました。市内の100歳以上(本年度末時点)の方は18人。市長は、「健康長寿は市民の願いであり、皆さんは市民の生き方の模範」とあいさつし、養護老人ホーム万年青苑(長島町)の県内最高齢109歳の近藤すわさん、在宅で最高齢105歳の小木曾さださん(山岡町)をはじめ、99歳の白寿を迎えられる皆さんなど計14人にお祝いの花かごなどを手渡しました。

スケート場に巨大モザイク



フォトモザイクの完成を喜ぶ参加者

発足50周年を迎えた恵那青年会議所では9月15日、恵那スケート場で節目の年となる本年の活動の集大成として、約6000枚の写真と張り合わせ、大きな1枚の絵を作るフォトモザイク制作を行いました。当日は、会議所会員親子や本年のイベント参加児童など約100人が参加。縦6畝・横10畝の巨大なひまわり畑の絵が出来上がると、参加者からは歓声が上がりました。制作した絵は、恵那スケート場に10月上旬から冬季営業期間終了まで掲示されます。